

上手に使って上手に節電

## もくじ

### ご使用前に

はじめに	2
安全上のご注意	3
取り扱い上のお願ひ	4
各部のなまえ	5

### 設置・工事

設置のしかた	6
設置上のお願ひ	6
通信可能範囲について	6
センタートランシーバーの間隔について	7
取り付けかた	8
接続のしかた	10
周波数を設定する	11
各種機能を設定する	12
センターユニットの設定	12
送信出力の設定	13
スケルチの設定	13

### その他

ユーザー通知一覧	14
仕様	15
保証とアフターサービス	裏表紙

### 保証書別添付

このたびは、ワイヤレスインターカムシステム センタートランシーバーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- ・この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なお読みにくいときにお読みください。
- ・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

# はじめに

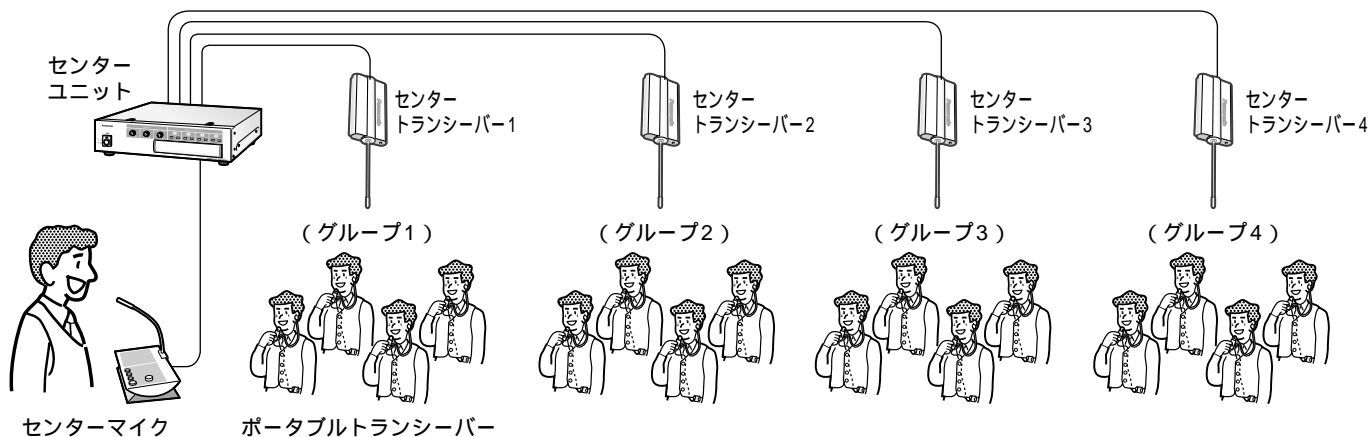
## 商品概要

本機は、ワイヤレスインターカムシステムに使用するセンタートランシーバーです。

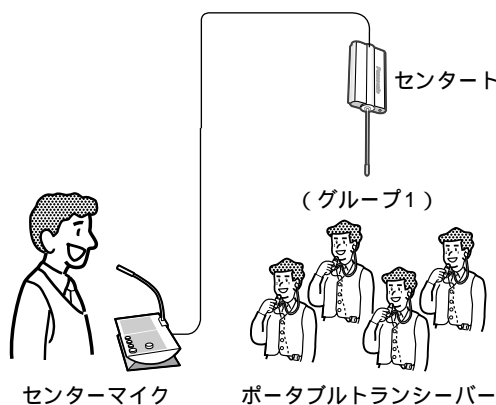
- ポータブルトランシーバー（別売品）間の通話の中継、またはセンターユニット・センターマイク（別売品）を接続してセンターマイクとポータブルトランシーバー間の通話の中継します。
- 壁取付金具（付属品）を使用して壁に、天井取付キット（別売品）を使用して天井に、使用現場に合わせて取り付けられます。
- 電源は、センターユニット・センターマイクからの供給と、ACアダプター（別売品）の2方式によります。
- 送信周波数の切換は、センターユニット・センターマイクからでも操作できます。

## システム例

### 例1：センターユニット、センターマイク使用



### 例2：センターマイク使用



### 例3：センタートランシーバー単独使用



## 付属品をご確認ください

壁取付金具 ..... 1  
チャンネル設定用小型ドライバー ..... 1

取扱説明書（本書）..... 1  
保証書..... 1

# 安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



## 警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



## 警告

### 工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店にご依頼ください。

### 異物を入れない



禁止

水や金属が内部にしていると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源を切ってから、販売店にご連絡ください。

### 分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

### 異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源を切ってから、販売店にご連絡ください。

### 塩害や腐食性ガスの発生する場所に設置しない



禁止

取付部が劣化して、落下などの事故の原因になります。

### ねじや固定機構はしっかり締め付ける



締め付けが緩むと落下などでけがの原因となります。

## ⚠ 警告

### 定期的に点検する



金具やねじが錆びると、落下などでけがの原因になります。

- 点検は販売店にご依頼ください。

### 指定の機器以外は取り付けない



落下などでけがの原因になります。

禁止

### 壁取付時、質量に耐える指定の方法で取り付ける



ゆるみやはずれで落下し、事故の原因になります

### ACアダプターを使用するときは、指定品以外は使用しない



火災や感電、故障の原因になります。

禁止

### ぶら下がらない足場代わりにしない



けがの原因になります。

禁止

### 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない



本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

### 病院内や医用電気機器のある場所では電源を切る（手術室、集中治療室、CCU\*などには持ち込まない）



本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

\*CCUとは、冠動脈疾患監視病室の略称です。

### 航空機内では電源を切る



運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

## 取り扱い上のごお願い

### 技術基準適合証明ラベルについて

本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。機器一台一台にその証明番号（証明ラベル）が貼ってあります。みだりに剥がしたり損傷の無いようご使用ください。

### 違法改造しないで

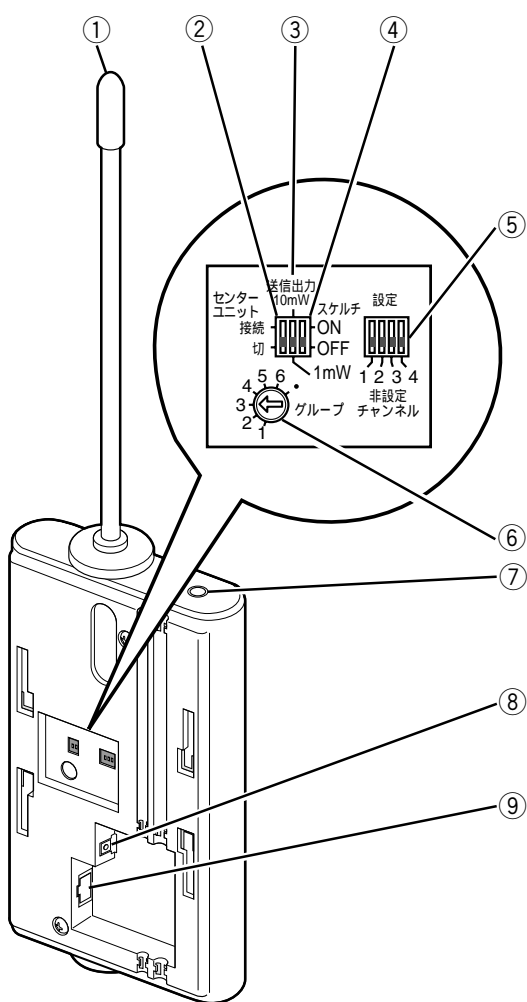
本機を分解したり、内部の部品に触ったりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

### お手入れは

- 電源を切り乾いた布でふいてください。汚れが取れにくいときは、薄めた台所用洗剤（中性）をやわらかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽く拭いてください。その後、乾いたやわらかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

# 各部のなまえ

- ① アンテナ  
電波を送受信するアンテナエレメントです。
- ② センターユニット接続スイッチ  
センターユニットまたはセンターマイクに接続するか、本機単独で使用するかを設定します。(☞12ページ)
- ③ 送信出力(空中線電力)切換スイッチ  
送信出力(1mW/10mW)を切り換えます。(☞13ページ)
- ④ スケルチ有効設定スイッチ  
トーンスケルチ・ノイズスケルチのON(有効)/OFF(無効)を設定します。(☞13ページ)
- ⑤ チャンネル設定ディップスイッチ  
周波数グループ設定ロータリースイッチで設定されたチャンネルプランの中の個別チャンネルを設定します。(☞11ページ)
- ⑥ 周波数グループ設定ロータリースイッチ  
周波数グループを設定します。(☞11ページ)
- ⑦ 電源LED  
本機に電源が供給されているとき点灯します。
- ⑧ DCコネクター  
ACアダプター(別途調達)を接続します。(☞10ページ)
- ⑨ センターユニット/センターマイク接続コネクター  
センターユニットまたはセンターマイクとネットワークLAN対応のケーブル(別途調達)で接続します。(☞10ページ)



# 設置のしかた



## 警告

工事は必ず販売店に依頼してください。

工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にし、本機に電源を供給する機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。接続する機器の取扱説明書も合わせてお読みください。

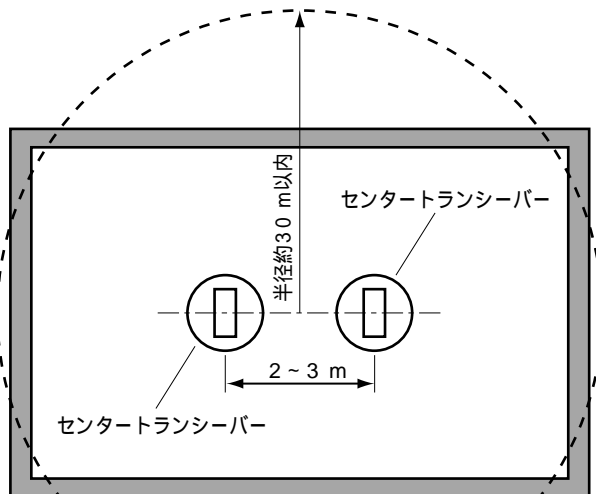
## 設置上のお願い

- 次のような場所の近くには設置しないでください。誤動作やノイズの影響を受ける可能性があります。また、通信可能範囲が狭くなる恐れがあります。
  - ・ 水銀灯やネオン灯など、放電を伴う機器の近く
  - ・ 空気清浄機やエアコン、コンピューターなど、雑音電波を発生する機器の近く
  - ・ 天井、壁、床下に配線された誘導ノイズを発生するケーブルの近く
- 高層ビル内に設置する場合は、放送電波・業務電波および外来ノイズなどの影響を少なくするため、窓より最も遠い位置に設置してください。それが無理な場合は、窓より3 m以上奥に設置してください。
- 壁取付について  
モルタル壁へのねじによる直取付はしないでください。強度不足による落下の原因や、発熱による発火の原因となります。
- 本機を壁に取り付ける場合は、ポータブルトランスシーバーの移動する範囲内で本機が見える位置に垂直に取り付けてください。
- 近く（30 cm以内）に電線や金属物などがあるところには設置しないでください。本機の受信感度が低下します。
- ネットワークLAN対応のケーブルの処理および接続は完全に行ってください。処理および接続が不完全な場合、送受信ができなかったり、ノイズが発生する場合があります。
- 電灯器具などの電気機器の電源スイッチをON/OFFした際に発生するノイズの影響で、本システムから大きなノイズ音が発生する場合があります。この場合、ノイズ源（電源スイッチで電源をON/OFFする機器や電源用のケーブル）からワイヤレス機器およびケーブルを遠ざけてください。

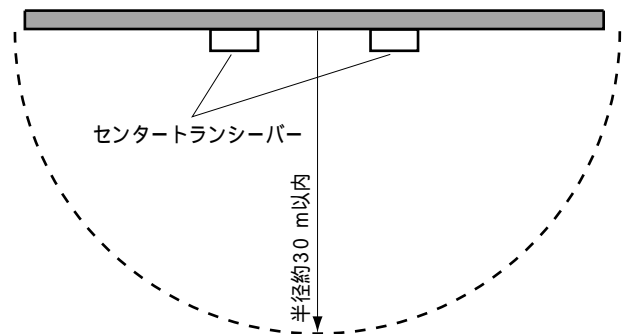
## 通信可能範囲について

通信が可能な範囲は、グループのセンタートランシーバーから屋外見通し約60 m、屋内で半径約30 mです（送信出力10 mW時）。（ただし、設置環境により変わります）

- 天井に取り付ける場合（天井から見た図）



- 壁に取り付ける場合（天井から見た図）

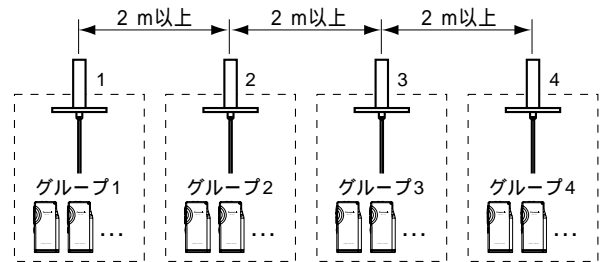


# センタートランシーバーの間隔について

センタートランシーバー間の距離は、システムの構成により異なります。センターユニット接続時のシステム構成については、センターユニットの取扱説明書をお読みください。

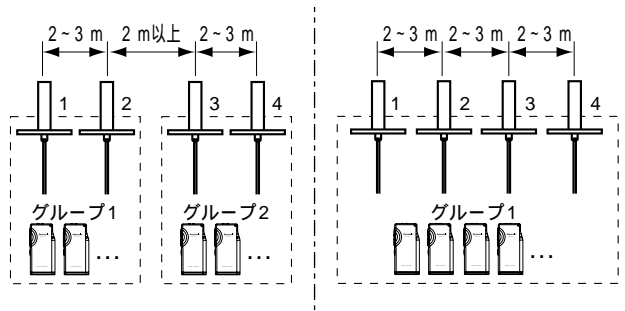
## センタートランシーバー1台で1グループを構成する場合

- 各グループのセンタートランシーバー間は、2 m以上にしてください。
- 対象システム  
4グループシステム [基本型] [サブグループ型]



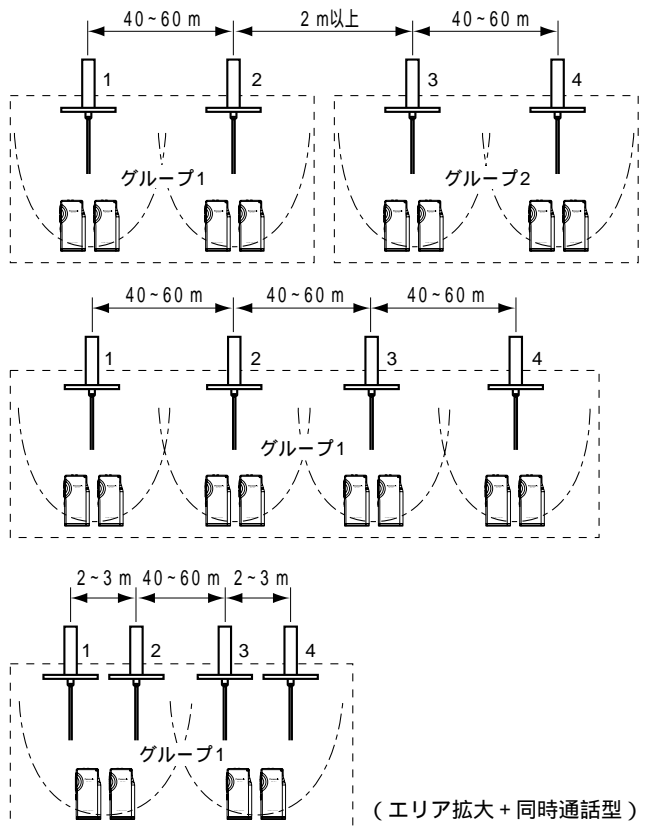
## 複数のセンタートランシーバーで1グループを構成する場合

- グループ内のセンタートランシーバー間は2~3 mにしてください。また、グループ間のセンタートランシーバーは2 m以上にしてください。
- 対象システム  
2グループシステム [基本型] [サブグループ型] [リーダー型]  
1グループシステム [基本型] [サブグループ型] [リーダー型]



## エリア拡大システムを構成する場合

- グループ内のセンタートランシーバー間は40~60 mにしてください。また、グループ間のセンタートランシーバーは2 m以上にしてください。
- エリア拡大+同時通話型のセンタートランシーバー間は、グループ内を2~3 mに、グループ間を40~60 mにしてください。
- 対象システム  
2グループシステム [エリア拡大型]  
1グループシステム [エリア拡大型]  
1グループシステム [エリア拡大+同時通話型]



## 取り付けかた

天井または壁面に取り付けることができます。

壁面へ取り付けの場合は、壁取付金具（付属品）を使用して取り付けます。  
スイッチボックス（現地調達）を使用して壁に埋め込むこともできます。

天井取付キット（別売品）を使用すると、天井に埋め込むことができます（詳しくは天井取付キットの取扱説明書をご覧ください）。

### ⚠ 警告

- 本体の不良による落下事故以外の取付方法不備などによる落下事故に対しては、弊社は一切責任を負いかねますので、取付場所や取付方法の設計は十分な注意をお願いします。強度が不足の場合は十分な補強をし、安全を確認してから取り付けてください。
- 安全のため十分な落下防止対策を施し、必ず定期的に保守点検を実施してください。
- ACアダプターを使用する場合は、容易に視認できる場所のコンセントをご使用ください。壁埋め込みや天井裏など、容易に視認できない場所でのご使用は絶対に行わないでください。火災や感電、故障などの原因となります。また、高い位置へ取り付けの場合、自重で落下する恐れがありますので、落下防止対策などを行ってください。

### 壁面へ取り付けの場合

壁面への取り付けは、スイッチボックスを使用する方法と壁に直接取り付けする方法があります。どちらの取付方法でも本機に付属されている壁取付金具を使用します。

- 壁面に直接取り付ける

## 1

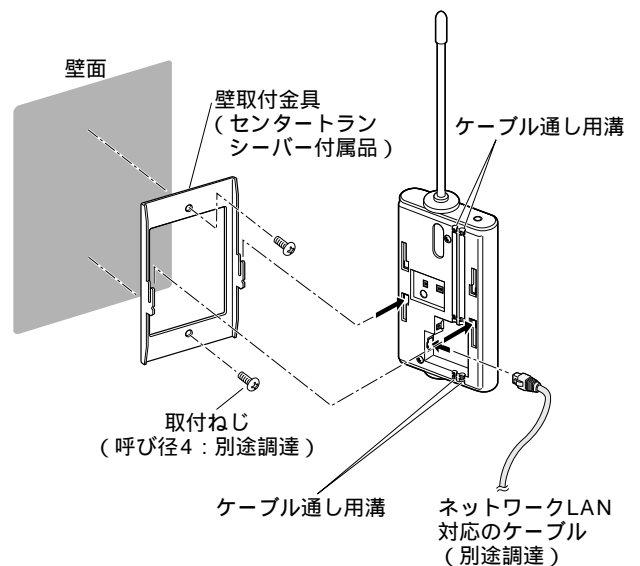
#### 壁取付金具を壁面に取り付ける

- 呼び径4の取付ねじを2個準備し、確実に固定してください。
- 壁取付金具の向き（上下）を誤らないように注意してください。

## 2

#### ケーブルを接続する

- ケーブルは、上下どちらかのケーブル通し用溝に通してください。
- 壁取付金具のツメにセンタートランシーバの溝を合わせ、カチッという感触があるまで押し下げてください。
- 本機は上下逆にしても取り付けられます。
- 使用するケーブルについては、10ページをご覧ください。
- ケーブルは余裕を持たせてください。引っ張ると、接触不良や断線の原因になります。





- スイッチボックスを使用して壁面に取り付ける

# 1

スイッチボックスからケーブルを引き出す

- 8Pinモジュージャック（RJ45）が付いていない場合は、ケーブル仕様（[P.10](#)ページ）をご参照のうえ取り付けてください。

# 2

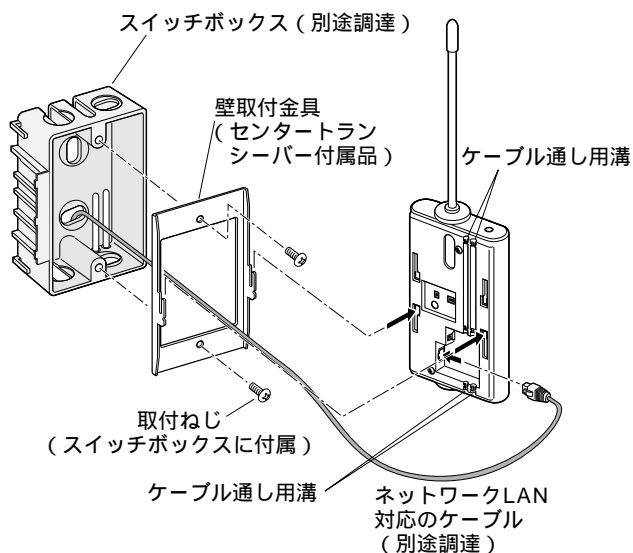
壁取付金具をスイッチボックスに取り付ける

- スイッチボックスに付属されているねじを使用し、確実に固定してください。
- 壁取付金具の向き（上下）を誤らないように注意してください。

# 3

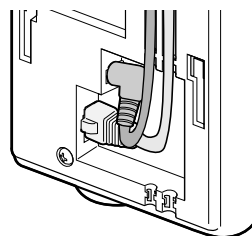
ケーブルを接続し、セントラートランシーバーを取り付ける

- 壁取付金具のツメにセントラートランシーバーの溝を合わせ、カチッという感触があるまで押し下げてください。
- 本機は上下逆にしても取り付けられます。
- 使用するケーブルについては、[10](#)ページをご覧ください。
- ケーブルは余裕を持たせてください。引っ張ると、接触不良や断線の原因になります。



- ACアダプターを使用する場合

- ACアダプターのケーブルを本機のケーブル通し用溝（上下いづれか）に通し、コンセントに接続してください。  
上側の溝に通す場合は、ACアダプターのL型プラグを下側に向けて接続し、ケーブルにたるみをもたせて引き回してください。



# 接続のしかた

センターユニットまたはセンターマイクに接続します。

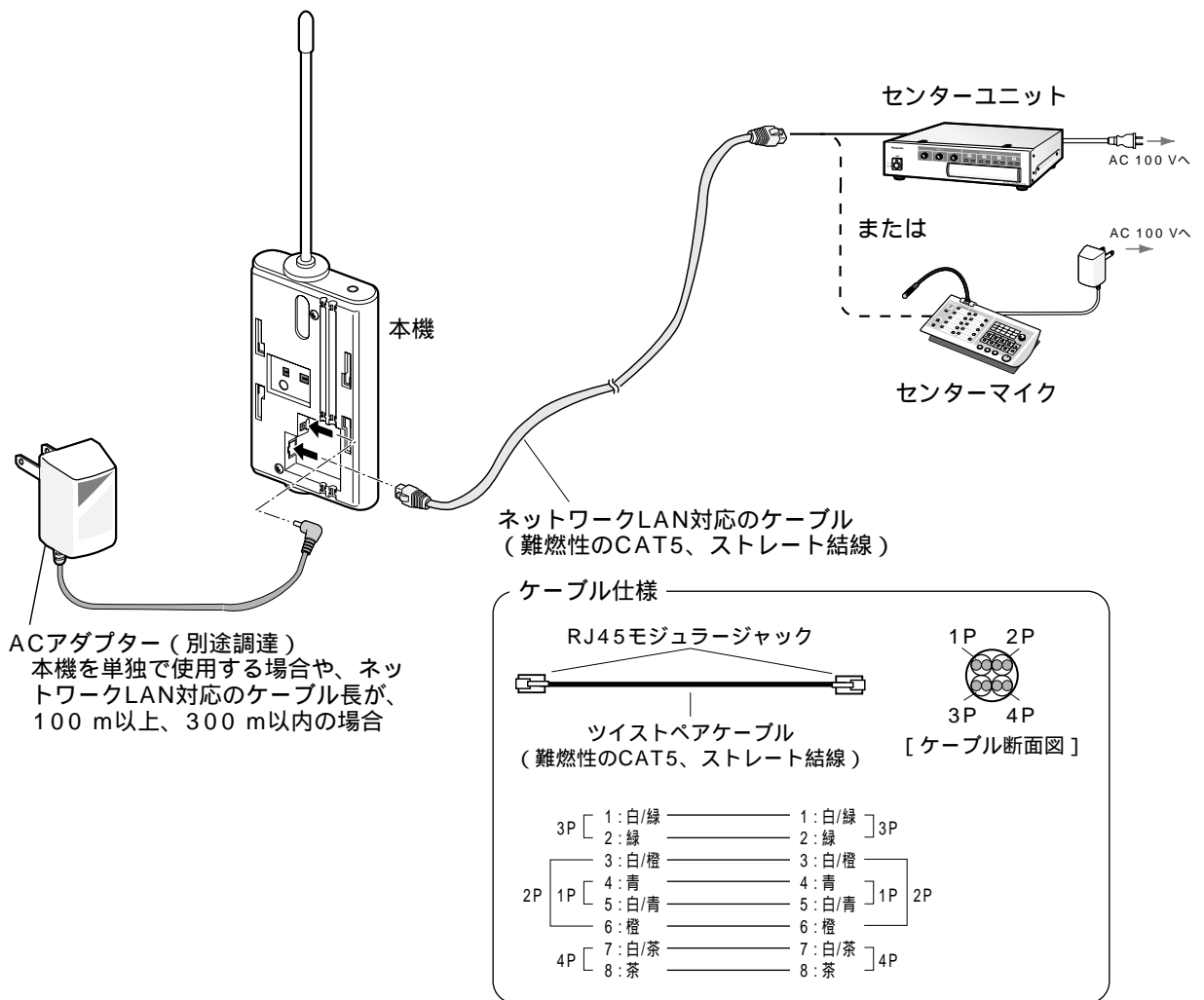
- ケーブルは付属していません。

“難燃性のCAT5（ストレート結線）”ケーブル（長さ100 m以内）を別途ご用意ください。

また、ケーブルの長さが100 m以上の場合は、供給される電力が低下しますので、下記のACアダプター（別途調達）を併用してください（ACアダプター併用時300 m以内）。

- センターランシーバーを単独で使用する場合は、下記のACアダプター（別途調達）を接続してください。

推奨ACアダプター：RP-AC61B（松下電器産業株式会社製） DC6 V（400 mA）



## 注意

- ACアダプターを使用する場合は、容易に視認できる場所のコンセントをご使用ください。壁埋め込みや天井裏など、容易に視認できない場所でのご使用は絶対に行わないでください。火災や感電、故障などの原因となります。

# 周波数を設定する

周波数グループ設定ロータリースイッチとチャンネル設定ディップスイッチで設定を行います。

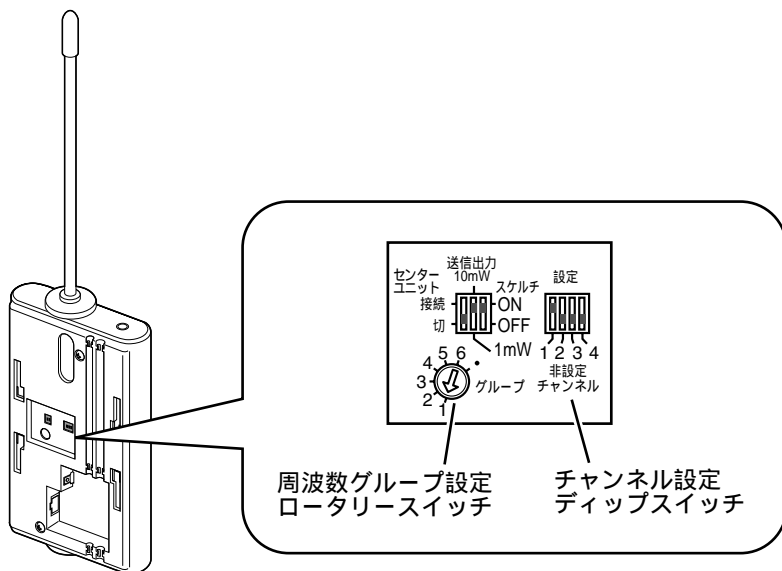
工場出荷時の設定は、周波数グループ設定ロータリースイッチ：“1”

チャンネル設定ディップスイッチ：チャンネル1のみ“設定”、他は“非設定”です。

- 周波数グループ設定ロータリースイッチ：ポータブルトランシーバーと同じ設定にします。
- チャンネル設定ディップスイッチ：使用するチャンネルを設定します。

## 注意

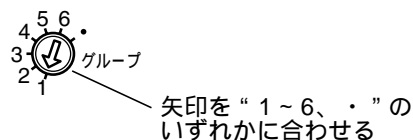
- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



## 1

### 周波数を設定する

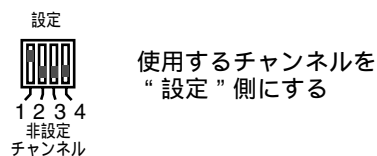
- 周波数グループ設定ロータリースイッチを“1~6、・”のいずれかに設定してください。



## 2

### チャンネルを設定する

- 本システムで使用されているチャンネルを1つだけ“設定”にします。センターユニットを使用しないシステムの場合も、使用するチャンネルのみ“設定”にし、他は“非設定”にします。



## メモ

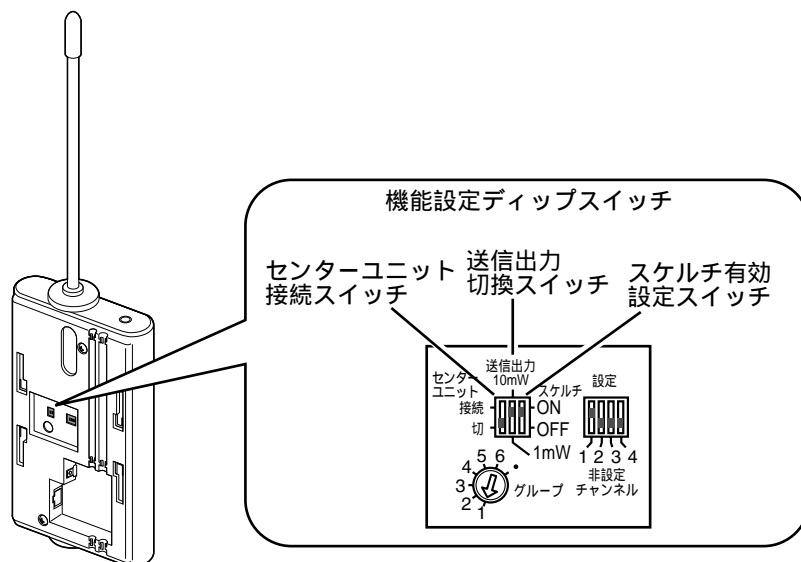
- センターユニットまたはセンターマイクが接続されている状態（センターユニット接続スイッチ“接続”時）で、かつセンターユニットまたはセンターマイクから周波数を指定された場合は、本機での設定は無効になります。
- センターユニット接続スイッチ“切”の設定で、周波数グループが“1~6、・”以外になっているとき、および全てのチャンネルが“非設定”になっているときは、異常状態となり電源LEDによる異常警告を通知して一切の操作・動作ができなくなります。
- 本システムで使用する周波数グループは、ポータブルトランシーバーと同じ設定にしてください。
- 複数のセントラートランシーバーを1つのシステムで使用するときは、同一周波数グループの異なるチャンネルに設定してください。

# 各種機能を設定する

機能設定ディップスイッチで、“センターユニット設定”“送信出力設定”“スケルチ設定”を行います。

## 注意

- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



## センターユニットの設定

センターユニットまたはセンターマイクの接続の有無を設定します。  
センターユニットまたはセンターマイクに接続されているときは“接続”に設定します。  
単独で使用する場合は、“切”に設定します。工場出荷時の設定は“切”です。

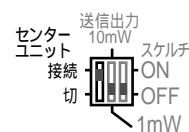
### 1

#### センターユニットを設定する

- センターユニット接続スイッチで設定してください。

接続：センターユニットまたはセンターマイクに接続

切：単独使用時（接続無）



## メモ

- 本スイッチが“接続”になっているときは、下記スイッチの状態にかかわらず、センターユニットまたはセンターマイクからの設定が有効になります。  
周波数グループ設定ロータリースイッチ / 送信出力切換スイッチ / スケルチ有効設定スイッチ / チャンネル設定ディップスイッチ
- センターユニットの周波数グループ設定ロータリースイッチが“MAN”になっているときは本機の設定が有効になります。
- 音声送受信状態のときに設定を変更すると、音声送受信状態は解除されます。

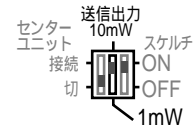
# 送信出力の設定

送信出力 (1 mW / 10 mW) を設定します。工場出荷時の設定は “10 mW” です。

## 1

### 送信出力を設定する

- 送信出力切換スイッチで設定してください。
  - 上 : 10 mW
  - 下 : 1 mW



### メモ

- 10 mWを使用する場合、法律での規定により、3分間通話をすると自動的に通信を切断し、2秒間通信が禁止されます。通話開始から2分30秒経過した時点で通信終了予告 (ピピピピッ) を行い、3分経過した時点で通信終了通知 (ブザー) を行います。
- センターユニット接続スイッチが “切” の場合、またはセンターユニットの周波数グループ設定ロータリースイッチが “MAN” になっているときは本機の設定が有効になります。送信出力の設定はポータブルトランシーバーと同じ設定にしてください。
- 音声送受信状態のときに設定を変更すると、音声送受信状態は解除されます。

# スケルチの設定

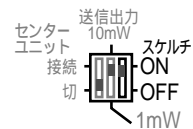
設置時のテストに使用するものです。“OFF (無効)” に設定すると常時ミュート解除状態 (常に通信内容やノイズが出力される) となり、通信が行われているか確認できます。

通常は “ON (有効)” の状態でお使いください。工場出荷時の設定は “ON (有効)” です。

## 1

### スケルチを設定する

- スケルチ有効設定スイッチで設定してください。
  - ON : 有効
  - OFF : 無効



### メモ

- センターユニット接続スイッチが “切” の場合、またはセンターユニットの周波数グループ設定ロータリースイッチが “MAN” になっているときは本機の設定が有効になります。
- 音声送受信状態のときに設定を変更すると、音声送受信状態は解除されます。
- 本機が受信していないときにスケルチ設定を “OFF” にすると、過大なノイズが出力されます。スケルチ設定を “OFF” にする場合はご注意ください。

# ユーザー通知一覧

本機では下記の内容について、電源LEDの点灯・点滅で動作状態をお知らせします。

分類	内 容		電源LED（赤）
通知	電源ON時		点灯
通知	電源OFF時		消灯
警告	スイッチ設定異常 (周波数グループ設定ロータリースイッチが1～6,・以外に設定されているなど)		ゆっくり点滅
警告	PLLアンロック確定	受信PLLアンロック ( 販売店に修理を依頼してください )	早く点滅
		送受信PLLアンロック ( 販売店に修理を依頼してください )	早く点滅
警告	EEPROM読込不可 ( 販売店に修理を依頼してください )		早く点滅

# 仕様

電波形式	F2D、F3E
発振方式	水晶制御PLLシンセサイザ方式
変調方式	リアクタンス変調方式
空中線電力	10 mW / 1 mW切替
到達距離	ワイヤレスインターカムシステムにて約 60 m (屋外 見通しにて)
変調感度	±0.85 kHz FM ( - 10 dBV 1kHzにて)
電源	センターユニットより供給 : 約 5.6 V ACアダプター (別途調達) : 約 6 V
消費電流	約 90 mA (5.6 Vにて)
使用温度範囲	- 10 ~ + 50
寸法	幅 72 mm 高さ 130 mm (アンテナ含まず) 奥行き 27.5 mm
質量	約 120 g
仕上げ	OAアイボリー色 (マンセル5.5Y7.5/0.3近似色)

周波数表

CT : センタートランシーバー、PT : ポータブルトランシーバー

チャンネル番号	CT : 受信周波数 PT : 送信周波数	CT : 送信周波数 PT : 受信周波数	周波数グループ							
			G1	G2	G3	G4	G5	G6	G・	
1	421.5750 MHz	440.0250 MHz	①							
2	421.5875 MHz	440.0375 MHz		①						
3	421.6000 MHz	440.0500 MHz								①
4	421.6125 MHz	440.0625 MHz	②							
5	421.6250 MHz	440.0750 MHz		②						
6	421.6375 MHz	440.0875 MHz			①					
7	421.6500 MHz	440.1000 MHz				①				
8	421.6625 MHz	440.1125 MHz					①			
9	421.6750 MHz	440.1250 MHz							①	
10	421.6875 MHz	440.1375 MHz	③							
11	421.7000 MHz	440.1500 MHz			②					
12	421.7125 MHz	440.1625 MHz				②				
13	421.7250 MHz	440.1750 MHz					②			
14	421.7375 MHz	440.1875 MHz						②		
15	421.7500 MHz	440.2000 MHz		③						
16	421.7625 MHz	440.2125 MHz								②
17	421.7750 MHz	440.2250 MHz	④							
18	421.7875 MHz	440.2375 MHz								③
19	421.8000 MHz	440.2500 MHz	-	-	-	-	-	-	-	-
32	421.8125 MHz	440.2625 MHz		④						
33	421.8250 MHz	440.2750 MHz			③					
34	421.8375 MHz	440.2875 MHz				③				
35	421.8500 MHz	440.3000 MHz					③			
36	421.8625 MHz	440.3125 MHz							③	
37	421.8750 MHz	440.3250 MHz			④					
38	421.8875 MHz	440.3375 MHz				④				
39	421.9000 MHz	440.3500 MHz					④			
40	421.9125 MHz	440.3625 MHz							④	

周波数グループの①~④チャンネルは、センターユニットに接続されるセンタートランシーバー1~4 (グループ1~4) に相当します。周波数グループG・は①~③チャンネルまでです。ただし、センターマイクに直接接続されるセンタートランシーバーの周波数グループおよびチャンネルは、センターマイクの設定によります。

# 保証とアフターサービス

よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ  
などのご相談は...

まず、お買い上げの販売店へ  
お申し付けください

## 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのもと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

## 補修用性能部品の保有期間

当社は、このセンタートランシーバーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 修理を依頼される時

電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- 保証期間中は  
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。
- 保証期間を過ぎているときは  
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 修理料金の仕組み  
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。  
**技術料** は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。  
**部品代** は、修理に使用した部品および補助材料代です。  
**出張料** は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

### ご連絡いただきたい内容

品名	センタートランシーバー
品番	WX-CT10
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WX-CT10
	販売店名	☎ ( ) -				

松下電器産業株式会社

AV&セキュリティビジネスユニット

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410